

| | |
|-----|-------------------------------------|
| 7-1 | |
| 主題 | 地域のサポーターが主体となってサロン運営を継続するための後方支援の工夫 |
| 副題 | 地域ので介護予防サロン大盛況！ |

| | | | | | |
|--------|---------|--------|---------|------|------|
| キーワード1 | 地域サポーター | キーワード2 | 介護予防サロン | 研究期間 | 24ヶ月 |
|--------|---------|--------|---------|------|------|

| | | | | | |
|-------------|---------------|-------------|--|--|--|
| 法人名 | 社会福祉法人 フロンティア | | | | |
| 事業所名 | 西部地域包括支援センター | | | | |
| 発表者 | 平山 友子 | アドバイザー：藤井 薫 | | | |
| 共同研究者：入江 志保 | | | | | |

| | | | |
|----|--------------|-----|--------------|
| 電話 | 03-3974-0065 | FAX | 03-3959-7666 |
|----|--------------|-----|--------------|

| | |
|------------------|---|
| 今回発表の事業所やサービスの紹介 | 社会福祉法人フロンティアは豊島区、中野区、文京区で高齢者福祉及び障害者福祉を事業展開している。今年度、西部地域包括支援センターでは、高齢者の抱える問題について高齢者自身の主体的なかかわりはもちろん、地域の様々な機関が共通の課題として取り組めるように、多様な社会資源をネットワークに組み入れることを目指している。 |
|------------------|---|

| |
|--|
| <p>《1. 研究前の状況と課題》</p> <p>現在、地域包括ケアの推進においては、予防的な観点が強調され、それには地域住民を含めたインフォーマルサポートの積極的な関与が必要であるといわれている。私たち地域包括支援センター（以下、「包括」）も、個別支援のみならず、地域力の向上に向けた取り組みが求められている。</p> <p>豊島区では、H25年度より介護予防事業の一環として包括単位で、介護予防サロン（以下、「サロン」）を開催することとなった。介護予防に加えて閉じこもりがちな高齢者の外出の機会となることを目指しているが、さらには、地域住民の力を「サロン」という場で発揮できるようボランティアである介護予防サロンサポーター（以下、「サポーター」）を養成し、運営はサポーターが中心となり、包括は後方支援の役割を担えるようになることも目標としている。</p> <p>《2. 研究の目的ならびに仮説》</p> <p>当包括では、他に先駆けて、H24年度のモデル事業から「要町サロン」を開催しているが、サポーターが中心の魅力あるサロンを作っていくた</p> |
|--|

| |
|---|
| <p>めには、公的機関である私たち包括がその主導を握るのではなく、地域のサポーターが主体的に楽しく続けられる工夫が必要であると考えた。</p> <p>それにはサポーターを包括の手伝い役として位置付けるのではなく、意見を尊重し、得意分野を活かしてもらい、任せ、活躍を促すことにより、結果としてサロン自体が活性化し、介護予防を担う重要な場になり得るのでは、との仮説を立てた。</p> <p>《3. 具体的な取り組みの内容》</p> <p>①サロンの内容・サポーターの役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月1回、2時間のサロン。講師による体操と音楽、その後茶話会。 ・サポーターはほぼ固定で5人。開始1時間前に集合し、会場設営から司会進行など全般を担い、茶話会の時間を中心に参加者の声も積極的に拾う。終了後は、包括職員と振り返りを行う。 ・サロンへの参加費無料、サポーターへの報酬はなし。 <p>②サポーターを中心にサロン運営を行う工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区主催の介護予防サロンのサポーター養成研修 |
|---|

を受講。サポーターの役割を理解する。

- ・常にサポーターを中心に「どんなサロンにしていくか」を話し合い、サポーターのアイデアには、「いいですね、やってみましょう」など包括職員がその都度積極的な OK メッセージを伝える。

- ・茶話会ではサポーターが参加者の話の輪に入り、日頃の取り組みなどを聞きながら、皆の前で披露したいことの希望も拾い上げる。参加者の思いやサポーターの意見を具現化できるよう、毎回振り返りの時間を設け、次回のサロンに繋げる。

- ・サポーターの要望（場所の提供など）に関しては、包括として他課とのつなぎ役を積極的に担い、常にサポーターが活動しやすいように配慮する。

- ・サロン担当職員が、他職員にもサポーターの活躍を伝え、毎月顔を合わせることに感謝やねぎらいの言葉、高い評価を包括全職員で伝える。

- ・包括として受け入れを行っている社会福祉実習などにもサロンへの参加を組み入れ、サロンやサポーターの役割・効果を実習生がサポーターにインタビューする。

《4. 取り組みの結果》

①参加者が大幅に増加し、とても活気のあるサロン運営ができています。

（参加者はサロン開始当初 12名ほど→現在平均27名）

- ・参加者の声「サロンを通して区民ひろばなど地域の施設を知り、外での楽しみが増えた。」「月1回の活動日を楽しみに待っている。」「ほとんど誰とも交流がないが、サロンだけは休まず通えている。」など。

- ・自宅で猛練習してサロンの場で特技を披露する方もいる。自分の趣味の会の仲間も加わっての披露もあり「目標を持って練習できた。」との声。それを見た参加者からは、「同年代の方達のイキイキした姿に刺激を受けた。」という声が多数。

②サポーターが生き生きと楽しみながら主体的に運営するサロンになっている。

- ・サポーターそれぞれの得意分野を活かしながらアイデアが次々と具現化されている（マスコッ

トキャラクター作り、ポスター作成、案内板の設置、標語作成、毎回の報告書作成など）。

- ・一人で参加している方には、サポーターが特に気を配り、楽しく過ごせるよう配慮をするようになった。

- ・サロンを一層充実させる為にサポーター自ら他のサロンの見学を計画するなど、ますます意欲が高くなっている。

《5. 考察、まとめ》

サロンは、包括主催の事業ではあるが、自分の地域で開催される介護予防への取り組みに携わりたいと希望して集まったサポーターの気持ちを汲み取り、サポーターを中心に話し合いをし、その内容を尊重し、任せる工夫を重ねた。それによりサポーター自身が楽しみ、また作り上げていく喜びを感じ、その思いがサロン全体の雰囲気となり、結果として、魅力あるサロンに繋がっていると思われる。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

本研究発表を行うに当たり、サポーターとサロン参加者に口頭にて確認をし、本研究発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答を持って同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

岩間伸之（2012）「予防的アプローチの推進とソーシャルワークの新しい展開」『ソーシャルワーク研究』相川書房。

《8. 提案と発信》

サロンでのかかわりを通して率直に「地域住民の力はすごい！」と感じた。今後、ボランティアの活躍がますます求められるが、その力を十分に生かし、ともに作り上げることも、私たち専門職の重要な役目であると改めて実感している。

今回の学びを、地域ケア会議や介護者の会の運営、新たに予定している認知症地域支援マップ作りなど、地域住民との協働を必要とする他の取り組みでも活かしていきたい。